質問回答書

大仙市長 老松博行

市有林資源量調査業務委託公募型指名競争入札に係る質問について、次のとおり回答いたします。

No.	質問内容	回答
1	共同企業体(JV)として入札可能か。もしくは、入札者(受注者)の業務委託先(再委託先)の資格、実績を含めることが可能か。	入札参加申込については、告示文の2.に掲げる入札参加資格要件を全て満たす1者によるものとし、JV及び業務委託先による入札参加は認めない。 実績については、以下の取扱いとする。共同施工方式のJV(甲型JV)による業務完了実績を有する場合には代表者のみ有効とし、構成員は認めないものとする。分担施工方式JV(乙型JV)による場合には、当該業務を請け負った者を有効とし、それ以外の者は認めない。
2	プロットの箇所は任意か。	プロットについては、当該小班の標準的な林分に設定するものである。
3	J-クレジット制度のモニタリング・算定規程を満たさない可能性が高いが問題ないか。	モニタリングプロットとする箇所については、測定結果をもとに、上層木の平均樹高を決定し、地位の特定を行うこととしているほか、林相が異なる場合も考えられることから、プロット数は40点以上としており、精度は保たれるものと考えている。
4	第17条の調査項目の「樹高」に「毎木胸高直径10cm以上とあるが、「毎木樹高10m以上」の間違いか。	仕様書のとおり、立木調査で、胸高直径10cm以上を測定するものである。

No.	質問内容	回答
5	胸高直径は、別手法での導出を提示することは可能か。ex. 樹高と樹冠投影面積から、胸高直径を推定する。	仕様書のとおり、立木調査で、胸高直径を測定するものである。
6	立木本数は、「樹冠」から推定してよいか。（「樹幹」と記載があるが、「樹冠」の間違いか）	仕様書の第21条のとおり、立木本数は、原則、幹の本数を基本としている。なお、下層植生の繁茂等により、これにより難しい場合には別途協議します。
7	調査対象林小班全体の76.85haに対して、平均7点密度2,000点/m ² を満たせばよいか。（つまり76.85haに対し、計1,537,000,000点以上の点群データを取得すると考えてよいか）	平均点密度2,000点/m ² 以上の点群データの取得で、精度は保たれると考えている。
8	オルソ画像作成範囲は、調査対象林小班全体の76.85ha(小班毎に作成)と考えてよいか。	お見込みのとおり。
9	数値標高モデル作成範囲は、調査対象林小班全体の76.85ha(小班毎に作成)と考えてよいか	お見込みのとおり。
10	等高線図作成範囲は、調査対象林小班全体の76.85ha(小班毎に作成)と考えてよいか。	お見込みのとおり。
11	CS立体図作成範囲は、対象林小班全体の76.85ha(小班毎に作成)と考えてよいか。	お見込みのとおり。